

JR 館山駅前花壇の設計を引き受けて

林 角 郎

年間2作で周年花を咲かせる花壇の設計

館山市ではJR館山駅の東口前にある直径約20mのロータリー花壇をこれまで長期間管理し、冬は特産のアイスランドポピー、夏はフレンチマリーゴールドなどを植栽してきました。しかし最近では予算削減により、管理がやや不十分となり、開花する期間が短く、雑草の発生もやや多い状態が続いていました。他方、筆者は平成18年から同市中央公民館の花壇を利用してボランティアの仲間を指導し、花を栽培して展示していました。その関係で、平成20年2月に商工観光課の職員から、この駅前花壇の設計の相談がありました。

その結果、設計を引き受けることになりました。まず夏作には公民館花壇の経験から、外側には矮性アフリカンマリーゴールドのパーフェクション系オレンジと黄に、白のホワイトバナナを加えて3品種を配し、その内側にセンニチコウのローズネオンと、さらに中央部にセンニチコウのストロベリーフィールドとラズベリーフィールドを入れ、すべて同心円型の配列で植えました。なお中心にはかなり大きなカナリーヤシが植えられているため、このあとの植栽のすべてがこのヤシを中心に配列することになりました。

使用する苗は他では安価に得られないため、同窓の南房パラダイスで活躍され、現在苗生産を行っている落合哲平さんに育苗をお願いし、6月4日に定植しました。この結果8月上旬に満開となり、一時見事になりましたが、当地は8月中降雨がなく、マリーゴールドは枯死株も出たため9月半ばに撤去し、センニチコウのみで10月末に切替えました。

次の冬作はやはり同心円型の配列で、一番外にスイートアリッサムを1列植え、その中にナチュレ系パンジーの6色の品種を配し、次にアイスランドポピーの矮性大輪のカクテル系紅、橙、黄の3品種を入れ、中心部はカナリーヤシを囲んで早生と中生のハナナを混播しておいたビニールポットを植えました。それぞれの生育は順調で、年末には揃って咲きだし、1月上旬にはかなり揃って咲きました。その後2月には寒さで一時的休み、3月から再開して4月末まで花いっぱい

状態になりました。しかし雑草には終始苦しめられ、5月連休過ぎに植物も弱ったため、撤去しました。

次の平成21年の夏作は、極力夏に強い花を選び、やはり同心円型で一番外側にイソトマを1列、次にマツバボタンの6色品種、次にジニアのスイズル系2品種を3列、さらにジニア‘プロフュージョン’の八重系3品種を入れ、中心部にセンニチコウのローズネオンを植えました。またマツバボタンの中にはハイビスカスのディスコベル2品種をスポット的に6カ所植え、立体感をもたせました。

この結果、スイズル系ジニアは早く花が終わりましたが、他はすべて夏の暑さに耐え、雑草も除草剤を植えつけ直後から使用してほぼ抑え、10月中旬まで完全な状態で、次の作に切替えました。これらの植栽で、新しい品種に関する情報は前述の中央公民館における試作結果と落合さんの助言が大変役に立ちました。

花壇にテーマを持たせて

次の平成21年秋の設計に当たっては、花壇にテーマをもたせたらと考え、当地にちなむ有名な物語として、滝沢馬琴の南総里見八犬伝をテーマとする植栽を工夫しました。このため8つの稜をもつ星型のデザインとし、それぞれの先端に円形の板をつけた柱を8本立て、安房の富山（とみさん）の洞窟で伏姫の首から飛び散った8個の数珠玉の中に描かれた「仁義礼智信忠孝悌」の8文字を張りつけました。植える花は平成20年と全く同様で、星の外側にはパンジーのナチュレ系8品種を、内部にはポピーのカクテル系赤、橙、黄の3色に、自家採種の白色系を加えた4色を2繰り返して配し、中央はこれも同様なハナナを早生と中生を別に播いて育苗したポットを交互に植えました。

肥料はこれまでにも使用した緩効性のIB化成を十分に施用し、除草剤も植えつけ直後に処理して、管理に万全を期しました。この結果開花はかなり長く続き、ハナナは4月末に除去し、その他の花はすべて5月いっぱいまで続き、花壇の効果は十分に発揮されました。

次の平成22年の夏作は、その前年末に市側から22年秋に行われる国体にちなむデザインの注文が出され



平成 22 年夏作は千葉国体を記念して、千葉県を宿根サルビアの白とブルーで表現し、キャラクターの「チーバ君」をセンニチコウで示した花壇と四季咲きペゴニアで作られたトビアリー。館山駅 2F バルコニーから撮影(2010 年 10 月 1 日)

ました。このため本県のマスコットであるチーバ君を取り入れ、まず中央には県章の 6 稜の星形をそのまま模して配置し、駅寄りに 2 体のチーバ君を向き合わせ、稲作のあぜシートで枠を作って配置することにしました。この県章の中はサルビア・ファリナセアの白花種で、外側はサルビアのブルーキーンを植え、チーバ君の枠内には落合さんの発案でセンニチコウの矮性品種のポビーレッドとしました。これらはすべて平面の配置ですが、別に市内の観光施設のファミリーパークでチーバ君の大型トビアリーを作り、駅前にもってきていたのでそれも加え、表面は紅色の四季咲きペゴニアのポットを並べ、これで立体感を出すことができました。

この原稿を書く 8 月半ばには周囲のブルーサルビアがまだ満開になっていませんが、他は完全に咲き揃い、この様子は館山駅に作られている 2 階のバルコニーからの眺めが大変見事でした。

続くテーマ花壇のいろいろ

この後 10 月の切り替え後は、地元の昔の農民の動きの万石騒動で犠牲となり処刑された 3 人の名主の 300 年祭が秋に行われるため、それらにちなむデザインを予定しています。計画としてその時の名主 2 名が書いた訴状に傘型連判が書かれていたことから、外側に 2 個の扇状区分を作り 9 色のナチュレ系パンジーを 3 繰り返しで配し、中央は 3 稜の星型図形にアイスランドポビーの 3 色の品種を配して、それぞれの稜の先に犠牲となった 3 人の名主の名を記した柱を立てる予定です。

こうしたテーマの花壇アイデアはさらに続く予定で、今後の平成 23 年と 24 年のテーマと植栽内容は表に示すとおりです。この内容は担当する市の商工観光課でほぼ了承しているため、この通りに実現するものと思

われます。ただそれぞれの実施に伴い PR のために内容の説明板を設けたり、解説の資料が必要なのでその準備も今後考えなくてはなりません。

以上のように公共的花壇の植栽については、基本の装飾効果の他に地域にちなむ史実、物語、観光、イベント等のテーマ性を持たせ、多くの人から親しまれるものとなるよう努めることが必要と考えられます。これらについて今後も工夫していきたいと思っていますが、現状のお知らせまでに述べさせていただきます。

JR 館山駅東口花壇 植栽計画 (案) 平成 22 年 8 月現在

時期	花壇名	内容	目的	
平成 23 年	夏	館山港多 目的観光 栈橋ウミ ホタル花 壇その①	三方向に海と砂浜、市街地を示す植栽を考え、栈橋は模様で示す。ウミホタルは青色 LED で点滅表現する。	平成 22 年完成の栈橋に協賛し、ウミホタルを併せ表現することで雰囲気盛り上げる。
	冬	黒川 ス トック花 壇	黒川氏育成の各品種を草丈・開花期の別に配置して植栽、長期間の開花を計画する。星型の配置とする。	名誉市民で全国的にも有名な黒川浩氏の業績を公表し、安房地域のストック PR に利用。
平成 24 年	夏	館山港多 目的観光 栈橋ウミ ホタル花 壇その②	平成 23 年夏のデザインを改良。LED の点滅でウミホタルを表現。	平成 23 年のバージョンを変え、さらなる PR を図る。
	冬	花作り和 尚花壇	キンセンカの各品種を組み合わせさせて花壇造成。12 月から 4 月まで継続開花。星型の配置。	平成 25 年春が、安房地域で初めてキンセンカを東京に出荷して 100 年目となることにちなむ。初出荷者の岩永益禪氏の物語にちなんで花作り和尚の花壇とする。